

ベネズエラ・マンスリー政治情報（平成26年10月）

1 内政

（1）2015年度予算案提出

21日、マルコ経済・財務・公共銀行大臣は、総額7,417.08億ボリバル（2014年当初予算は5,526億ボリバル）の2015年国家予算法案を国会に提出した。今後、年内に国会の第1審議、第2審議での承認を経て、官報にて公布される予定。なお、本予算法案は、GDP成長率3%、原油価格60米ドル/バレル、インフレ率25-30%、及び為替レート6.3ボリバル/米ドルで算出。

（2）セラ国会議員殺害事件

ア 1日、カラカス首都区の自宅において、与党（PSUV）のロベルト・セラ国会議員（27歳、2010年当選、最年少の国会議員）及び同氏の交際相手の女性が殺害された。

イ 7日、殺害されたセラ国会議員に代わり、補欠議員のフアン・コントレラス氏が国会議員に就任。

ウ 15日、マドゥーロ大統領は、ビデオ等を用いて、同殺害事件容疑者の実名、容疑者の自白内容、事件詳細等を公表した。犯行の実行犯は計8名で、「エル・コロンビア」の通称と呼ばれ、武装組織（Paramilitar）を率いているとされるコロンビア人のパディージャ・レイバが、当時、同国会議員付ボディーガードであったエドウィン・トレス・カマチョと共謀して、犯行に至ったと発表された。

エ 22日、サンペールUNASUR事務局長は、ツイッターで、同殺害事件がコロンビアと関連があるとされていることへの懸念に関連して、「各国の国内問題には介入しない」と発言。

（3）閣僚等政府人事

ア 通信情報大臣の交替人事

13日夜、マドゥーロ大統領は、2013年8月から同職を務めたデルシ・ロドリゲス女史に代わって、ジャケリン・ファリア・カラカス首都区長官を通信情報大臣に任命した。なお、同日、エルネスト・ビジェガス元カラカス首都区再建大臣（注：9月15日付政府決定により首都区再建大臣職廃止）がカラカス首都区長官に任命された。

イ 内務司法大臣及び国防大臣の交替人事

24日、マドゥーロ大統領は、ミゲル・ロドリゲス・トーレス内務司法大臣

に代わり、カルメン・テレサ・メレンデス国防大臣を新内務司法大臣として任命した。また、メレンデス国防大臣に代わり、ブラディミール・パドリーノ・ロペス国軍作戦戦略指令部司令官を新国防大臣に任命した。

ウ CONVIASA社長の交替

24日、ルイス・グラテロル社長（前空輸海運大臣）の後任として、ホセ・グレゴリオ・ペレイラ氏が同社社長に任命された。新社長は、本年9月より、空輸海運次官を務めていた。

エ 内務司法省管轄の登記・公証自治サービス局長人事

28日、ダンテ・リバス国家手続許可局（Autoridad Unica Nacional en Tramites y Permisologia）局長が、内務司法省管轄の登記・公証自治サービス局長（Servicio Autonomo de Registros y Notarias : Saren）に任命された（官報第40.527号）。

（４）警察機構改革

ア 27日、カラカス軍士官学校において、パドリーノ国防大臣就任式（国軍作戦戦略司令官職留任）・国家警備軍総司令官移管式典が開催され、ガブリエル・オビエド（新内務司法次官）からネストル・レベロル・トレス中將に国家警備軍総司令官が移管。この式典の場で、マドゥーロ大統領は、11月1日より、国軍所属者の給与を45%増加させることを承認した。また、同大統領は、セラ国会議員殺害事件に関連し、カラカス警察職員がコロンビアのパラミタリーから50万米ドルを受け取っていたとして、メレンデス新内務司法大臣に対し警察機構改革を命じた。

イ 30日、マドゥーロ大統領は、フレディ・ベルナル国会議員を警察機構改革大統領委員会委員長に任命したと発表。

（５）政府系武装集団及び内務司法警察の衝突と内務司法大臣の人事異動の関連性

7日、政府系武装集団（コレクティーボ）リーダーの搜索を発端に、同コレクティーボと内務司法警察（CICPC）が衝突し、銃撃戦で5名が死亡した。この衝突に起因して、一部政府系武装集団が19日の週より、ロドリゲス・トーレス内務司法大臣への批難を繰り返し、政府当局に対し圧力をかけ同氏の更迭を要求していたことから、一部報道では、マドゥーロ大統領が、政府系武装集団からの圧力に屈して内務司法大臣を更迭したとの見方もある。

（６）世論調査結果

ア Hinterlaces（与党系）が9月に行った調査によれば、マドゥーロ大統領の

支持率は41%。いずれの政党を支持するかとの質問に対しては、PSUVが36%、野党各党合計が13%。

イ IVAD社が9月に実施した調査によれば、政府与党派は33%、野党派は53%、政府が独裁的であるとする者の割合は60%。

(7) 全国選挙評議会(CNE)委員選出に向けた動き

ア 14日、2013年4月に任期満了となった全国選挙評議会(CNE)委員3名及び補欠委員計6名の後任候補を国会に推薦する候補者推薦委員会(CPE)(民間選出委員計10名)の人選に関し、国会は与野党6対4の比率で合意に達した。

イ 21日、国会は、21名の候補者推薦委員の宣誓式典を行った。右委員内訳は、国会議員からPSUV6名、MUD5名。一般市民から10名(与党任命6名、野党任命4名)。

ウ 22日、CPEにて、ブランカ・エコウト(Blanca Eekhout)委員長(国会第2副議長:PSUV)及びホセ・マリア・カデナス・ゴンサレス副委員長(一般市民メンバー:当国にて選挙監視等を行う当地NGO団体「教育会議」からの推薦を受けた大学教授で野党寄り)が選出された。

エ 29日、CPEは、CNE委員立候補者の出願期間について、10月31日から11月13日までと公示した。

(8) 野党連合MUDの動き

11日、MUDは、全国22カ所の与党の影響力の強い地域を中心に、暴力反対、物不足、治安悪化等を訴えるための市民議会と称する集会を実施。

(9) 大統領授権法による法令制定

7日、マドゥーロ大統領は、大統領授権法を通じ、若年層の雇用に関する法を制定。起業家支援のため5億ボリバルが承認された他、各企業に対し、全雇用者の5%以上を新卒採用とするよう義務づけた。

(10) 野党リーダー政治囚拘束問題

ア レオポルド・ロペス大衆意志党党首

(ア) 9月23日、国連人権理事会の不当逮捕に関するワーキンググループは、ベネズエラが市民的・政治的権利に関する国際条約を遵守しておらず、今年2月から当国政府に拘束されているレオポルド・ロペス大衆意志党党首は、即時釈放されるべきであるとの見解を公表した。

(イ) 10日、ラミーレス外相は、米国政府に対し、(ロペス大衆意志党党首

の件等で)内政干渉しないよう求めた。

(ウ) 14日, レオポルド・ロペス大衆意志党党首の審判が再開された。今次審判には, ジャープ・ヴァン・デル・ゼエウ・オランダ臨時代理大使及びゲルハルド・エンダー・オーストリア領事が出席。欧州外交団から本件に対する強い関心が示された。ロペス氏は, 今次審問にて, 「市民的・政治的権利に関する国際条約にベネズエラが署名している以上, 国連からの釈放要請に応えるべきである。」と弁論。

(エ) 15日, ディアス検事総長は, 国連人権理事会の不当逮捕に関するワーキンググループによるロペス大衆意志党党首釈放要請に関し, 「拘束力はない。我が国は独立国家であり主権を持つ旨コメント。

(オ) 17日, リリアン・ティントリ(ロペス党首)夫人は, ジュネーブにおいて, ゼイド・ラド・アル・フセイン(Zeid Ra'ad al Hussein)国連人権高等弁務官と面談し, ベネズエラにおける人権侵害状況について訴えた。

(カ) 20日, ゼイド・ラド・アル・フセイン国連人権高等弁務官は, 声明を発表し, レオポルド・ロペス大衆意志党党首をはじめとして, 本年2月からベネズエラで60名以上の政治囚が拘束されている現状に関して強い懸念を表明。さらに, 同氏は, ベネズエラ政府に対して, 国連人権理事会の不当逮捕に関するワーキンググループによるロペス大衆意志党党首及びセバージョス・サン・クリストバル前市長等の釈放要請にしかるべく対応するよう求めた。

(キ) 22日, 在ジュネーブ・ベネズエラ代表部は, ゼイド・ラド・アル・フセイン国連人権高等弁務官に対して書簡を送付し, レオポルド・ロペス大衆意志党党首等の即時解放要請を「軽率な言動」と批難。

(ク) 22日, ラホイ西首相は, リリアン・ティントリ・ロペス党首夫人とマドリードにおいて会合し, ラホイ首相は, ロペス大衆意志党党首が拘束されている現状に憂慮を示した。

(ケ) 23日, 当国外務省は, レオポルド・ロペス大衆意志党党首問題へのラホイ西首相の発言を内政干渉であるとして拒絶の意を表した。また, 24日には, マドゥーロ大統領がラミーレス外相に対し, スペインとの関係を見直すよう指示。

(コ) 25日, インスルサOAS事務総長は, 「ベネズエラには, 対話以外に出口は存在しない」と発言。政治囚に関しても, 釈放すべきと述べた。

(サ) 28日, レオポルド・ロペス大衆意志党党首の審問が予定されていたが, 同日, ロペス党首はツイッターにて, 「国連人権理事会により主張されている自分(「ロ」党首)の選挙プロセス・制度上の権利が遵守されるまでは, 裁判には出席しない。」と公表。

(シ) 30日, リリアン・ティントリ夫人及びパトリシア・グティエレス(セ

バージョス）夫人が記者会見を開き、２７日、軍事刑務所に収監されているレオポルド・ロペス大衆意志党党首、エンソ・スカラノ元サン・ディエゴ市長、ダニエル・セバージョス元サン・クリストバル市長が看守らの主導により糞尿を浴びせられる等の人権侵害を受けたと訴え、政府に対して国連決議を遵守するよう求めるとともに、国際機関と連携し、正義を追求する意向を述べた。

イ セバージョス前サン・クリストバル市長

８日、セバージョス前サン・クリストバル市長の審問が実施された。弁護側から提出されていた訴状（扇動罪及び反逆罪は両立し得ないとする主張）は、全面的に却下された。

（１１）ＰＳＵＶ理念教育機関の始動

１４日、第３回ＰＳＵＶ党大会にて創設が決定された理念教育機関

「Instituto de Altos Estudios Hugo Chavez」の事業の第一弾として、カラカスにてセミナー「Chavez su legado en accion」開催式典を実施。同校長には、アダン・チャベス氏（チャベス前大統領の兄）就任。

２ 外交

（１）国連安保理非常任理事国当選

１６日に実施された国連安保理非常任理事国選挙（２０１５－１６年）において、ベネズエラは、得票１８１票（１９３カ国中、無効票１、棄権１０、反対票１）を得て、当選要件となる１２９票（全体の３分の２）を大きく上回り当選を果たした。なお、同投票には、ラミーレス外相が出席した。これまで、当国は、１９６２－６３年、１９７７－１９７８年、１９８６－８７年、１９９２－９３年に非常任理事国を務めている。

（２）ラミーレス外相の外国訪問

ア ７－８日、ラミーレス外相がロシアを訪問し、８日、ラブロフ露外相と会談。二国間関係、ウクライナ紛争、諸外国政府によるベネズエラ国内問題への内政干渉等につき相互の立場を支持すること、二国間技術・軍事協力、石油分野におけるロスネフチをはじめとするロシアのベネズエラへの貢献等につき話し合った。また、ラミーレス外相は、ベネズエラがＯＰＥＣ加盟各国との協力関係を促進し、原油・石油価格下落を阻止する意向であることを明らかにした。

イ ２８日、ラミーレス外相はハイチを訪問し、ローラン・ラモット・ハイチ首相と会合。ペトロカリベを通じた協力関係等について協議した。

（３）エボラ出血熱対策

ア 20日、キューバのハバナにて、エボラ出血熱対策のためのALBA特別首脳会議が開催され、ベネズエラからマドゥーロ大統領とラミーレス外相出席し、水際対策、アクションプラン策定を行うことで合意に至った。

イ 22日、マドゥーロ大統領は、アレアサ副大統領を筆頭とするエボラ出血熱対策大統領府委員会を設立した旨発表。

(4) コロンビアとの国境における密輸対策

ア 4日、オルギン・コロンビア外相は、ベネズエラの国境警備当局関係者が、取り締まりのためバイクを追跡し、発砲しながらコロンビア領内に入ったことは容認されない旨発言。

イ 23日、マドゥーロ大統領は、コロンビア国境での密輸問題に関連し、公正価格であれば、合法的に商品を売る準備があると発言。

(5) スクレ人工衛星製造計画

7日、メネンデス企画・教育担当副大統領（企画大臣）は、ベネズエラにとって3機目となるアントニオ・ホセ・デ・スクレ人工衛星製造計画を発表した。右衛星の設計、組み立て、軌道投入はベネズエラ及び中国の専門家が行い、衛星製造全般は、中国の「Great Wall Industry 社（中国長城工業集团有限公司）」の協力の下、国内で実施される予定。本件に関連し、2015年下半年から、宇宙開発センターを建設する予定。

(了)

マドゥーロ政権閣僚リスト

平成26年10月24日現在

役職	氏名・カタカナ表記	氏名・ローマ字表記	新・再任	軍出身	担当副大統領
大統領	ニコラス・マドゥーロ・モロス	Nicolás <u>Maduro</u> Moros			
副大統領	ホルヘ・アルベルト・アレアサ	Jorge Alberto <u>Arreaza</u>			
大統領府大臣	カルロス・オソリオ	Carlos <u>Osorio</u>		*	(6)
内務司法大臣	カルメン・テレサ・メレンデス・デ・マニグリア	Carmen Teresa <u>Meléndez</u> de Manigla	新	*	(6)
外務大臣	ラファエル・ダリオ・ラミーレス・カレニョ	Rafael Dario <u>Ramírez</u> Carreño			(6)
企画大臣	リカルド・メネンデス	Ricardo <u>Menéndez</u>			(4)
経済・財務・公共銀行大臣	ロドルフォ・マルコ・トーレス	Rodolfo <u>Marco</u> Torres		*	(2)
国防大臣	ブラディミール・パドリーノ・ロペス	Vladimir <u>Padrino</u> López	新	*	(6)
商業大臣	イサベル・クリスティーナ・デルガド・アリア	Isabel Cristina <u>Delgado</u> Arria			(2)
産業大臣	ホセ・ダビッド・カベージョ	Jose David <u>Cabello</u>		*	(2)
観光大臣	アンドレス・イサラ・ガルシア	Andrés <u>Izarra</u> García			(2)
農業・土地大臣	ホセ・ルイス・ペロテラン・ヌニェス	José Luis <u>Berroterán</u> Nuñez			(3)
大学教育・科学技術大臣	マヌエル・アンヘル・フェルナンデス・メレンデス	Manuel Angel <u>Fernández</u> Meléndez			(4)
基礎教育大臣	エクトル・ロドリゲス	Héctor <u>Rodríguez</u>			(4)
保健大臣	ナンシー・ペレス・シエラ	Nancy <u>Pérez</u> Sierra			(5)
労働・社会保障大臣	ヘスス・マルティネス	Jesús <u>Martínez</u>			(5)
空輸海運大臣	ジョゼッペ・アンヘル・カルメロ・ジョフレダ・ジョリオ	Giuseppe Angelo Carmelo <u>Yoffreda</u> Yorio		*	(2)
陸上輸送・公共事業大臣	ハイマン・エル・トゥルディ・ドウワラ	Haiman <u>El Troudi</u> Douwara			(7)
住宅・環境大臣	リカルド・モリーナ・ペニャロサ	Ricardo <u>Molina</u> Peñaloza			(7)
石油鉱業大臣	アスドゥバル・バル・チャベス	Asdrúbal <u>Chávez</u>			(2)
通信情報大臣	ジャケリン・ファリア・ピネダ	Jacqueline <u>Faria</u> Pineda	新		(6)
コミュン・社会運動大臣	エリアス・ホセ・ハウア・ミラノ	Elias José <u>Jaua</u> Milano			(7)
食糧大臣	イバン・ホセ・ベージョ・ロハス	Yván José <u>Bello</u> Rojas		*	(3)
文化大臣	レイナルド・アントニオ・イトウリサ・ロペス	Reinaldo Antonio <u>Iturriza</u> López			(4)
青年・スポーツ大臣	アントニオ・アルバレス	Antonio <u>Álvarez</u>			(5)
先住民大臣	アロア・ヌニェス	Aloha <u>Núñez</u>			(5)
女性・ジェンダー大臣	アンドレイーナ・タラゾン	Andreína <u>Tarazón</u>			(5)
電力大臣	ジェシー・チャコン	Jesse <u>Chacón</u>		*	(7)
刑務所大臣	イリス・バレラ	Iris <u>Varela</u>			(5)

(2)ロドルフォ・マルコ経済財務担当副大統領所管

(*)…軍出身者

(3)イバン・ヒル食糧安全保障担当副大統領所管

(4)リカルド・メネンデス企画・教育担当副大統領所管

(5)エクトル・ロドリゲス社会開発・社会ミッション革命担当副大統領所管

(6)ラファエル・ラミーレス政治主権担当副大統領所管

(7)エリアス・ハウア社会主義領域開発担当副大統領所管